

アレリーフ[®]ローション 症例報告

アトピー性皮膚炎の再燃による指間炎を アレリーフ[®]ローションで治療した犬の1例



神奈川県 西湘動物病院 瓢子華観 先生
日本獣医皮膚科学会理事 強矢 治 先生

はじめに

犬のアトピー性皮膚炎において抗炎症薬などの全身投与で管理が良好であっても、耳や肢端をはじめとする局所の痒みのコントロールが難しいケースを多く目にする。今回前肢の指間を痒がるとのことで来院し、アレリーフ[®]ローションを使用して著効が得られた症例を報告する。

症例

品 種：MIX(シーズー×マルチーズ)
性 別：避妊 雌
年 齢：5歳
体 重：7.0kg(BCS 4/9)
既往歴：なし



症例の写真

経過

3歳頃から全身の掻痒および外耳炎を繰り返しており、最近症状が悪化してきたとの主訴で来院した。一般状態は良好であり、全身性の軽度脂漏のほか四肢指間の紅斑および左右の外耳炎を認めた。

各種皮膚科学的検査および除去食試験などを用い、脂漏症を伴うアトピー性皮膚炎と診断した。

耳介内側の苔癬化と腫脹が重度であったため、プレドニゾロンの内服およびモメタゾン含有点耳薬の耳介への塗布で治療を開始した。外耳炎症状の改善とともに徐々に内服薬をオクラシニブへ移行したが、脂漏ならびに掻痒のコントロールが不十分であったため、シクロスポリンに変更した。その後シクロスポリンの隔日投与ならびに角質溶解シャンプーと保湿入浴剤による週1回のシャンプーおよびスキンケア療法によって良好に維持されていた。

初診から12カ月後に、数日前から前肢を舐めているとのことで再来院した。全身の掻痒の悪化はなく、外耳炎も認められなかったが、左右ともに前肢指間に脂性鱗屑および紅斑を認め(写真1)、皮表細胞診検査にて微生物の増殖が認められなかったため(写真2)、アトピー性皮膚炎の局所的な再燃と診断した。アレリーフ[®]ローションを1日1回7日間塗布したところ、左右ともに前肢指間の舐性行動や鱗屑および紅斑が減少したためアレリーフ[®]ローションを休薬とした(写真3)。

